

偉大な旅

ー新人の拡散と八重山 白保竿根田原の人骨は何を語るかー

会期：H22(2010)年7月27日-8月8日

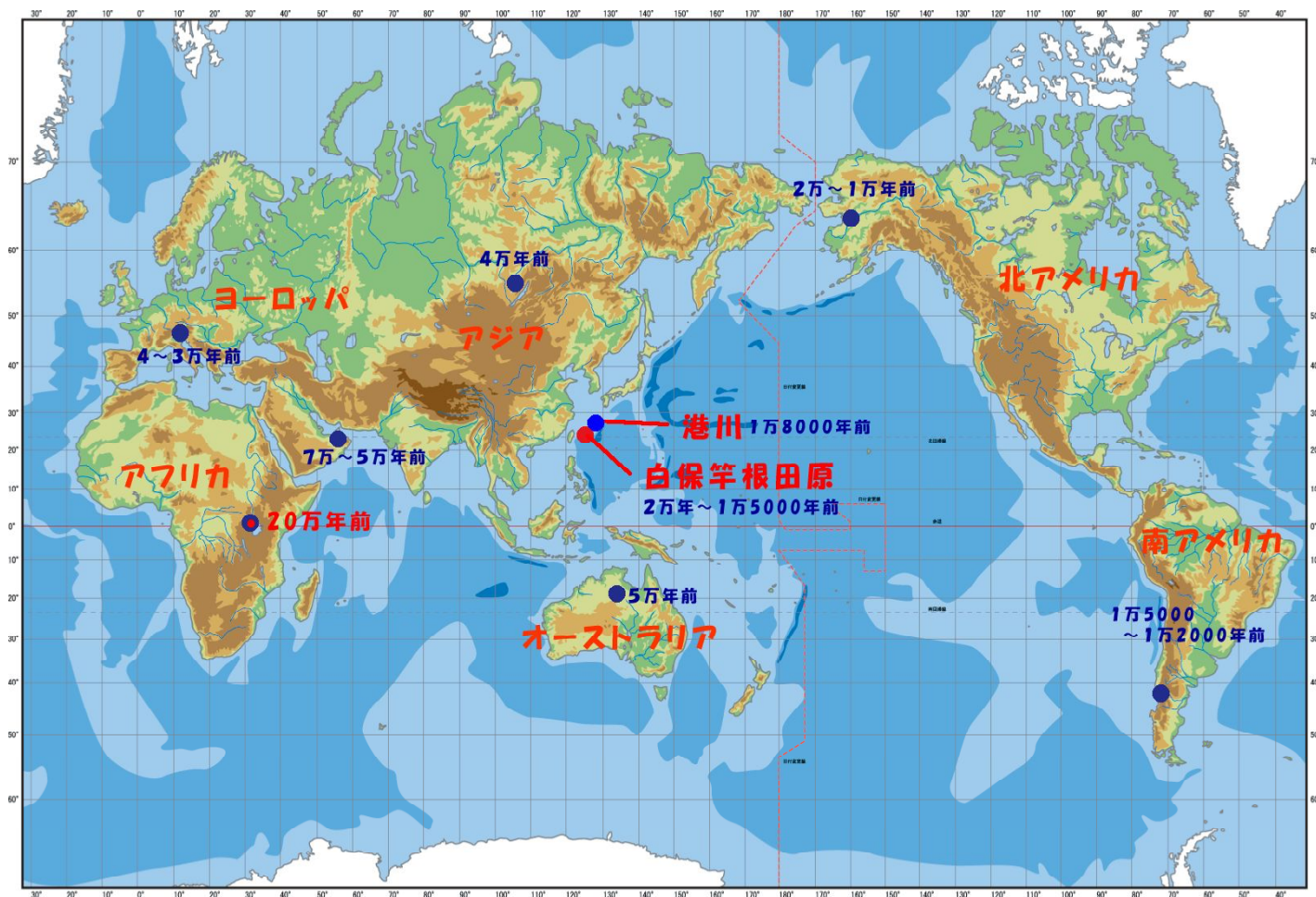
◆人類の進化と新人の拡散

人類の祖先は、約700万年前のアフリカで誕生したと考えられています。この人類の祖先は猿人と呼ばれました。彼らは類人猿（チンパンジーやゴリラなど）に比べて犬歯が小さく、膝と股関節をまっすぐ伸ばして直立二足歩行をしている点が特徴です。やがて、200万年前ごろになると、**原人**と呼ばれる人びとが誕生します。原人たちは、火や石器も使用するようになり、アフリカを旅立って東南アジアや東アジアまで分布を広げました。

60万年前ごろには、**旧人**と呼ばれる人びとが誕生しました。旧人たちは、現代人との外見的な違いはごくわずかでした。彼らは、寒さの厳しい氷河時代にヨーロッパまで分布を広げました。しかし、これらの祖先たちは、すべて絶滅してしまいます。

そして、約20万年前に、現代人を含む**新人**（ホモ・サピエンス）がアフリカで誕生しました。新人は約5万年前にアフリカを旅立ち、世界中へと分布を広げました。わずか数万年で世界中へ広がった新人の拡散を、**グレートジャーニー（偉大な旅）**と呼ぶ人もいます。

新人（ホモ・サピエンス）の主な拡散時期



◆沖縄で化石人骨が見つかりやすいわけ

沖縄から化石人骨が発見されやすい理由は、石灰岩が発達しているためと考えられます。石灰岩は、もとは海の中でつくられたサンゴ礁が岩石となったもので、その主成分は炭酸カルシウムです。人骨の主成分であるリン酸カルシウムは、地中に埋まっている間に、酸を含んだ地下水によって少しずつ溶かされていきます。ところが、石灰岩地帯では地下水に含まれる酸が炭酸カルシウムを溶かすことで中和されるため、骨を溶かす力が弱まると考えられています。



石垣島石城山残丘部遠景



石垣島轟川流域出土のシカ化石
(石垣市立八重山博物館所蔵)

◆白保竿根田原洞穴からの人骨発見

新石垣空港建設敷地内にある白保竿根田原洞穴から発見された人骨は、年代測定によって約2万年前、1万9,000年前、1万5,000年前のものが含まれていることが分かり、新聞などで大きく取り上げられました。

これまで、日本列島で発見された人骨のうち、コラーゲンで年代を測ることができた最古の人骨は、静岡県浜北遺跡の人骨で、約1万4,000年前でした。白保竿根田原の人骨は、それよりも古い約2万年前の人骨であることがわかったため、「コラーゲンで年代測定を行えた人骨としては日本最古」と報道されたのです。先にも紹介したように、一緒に見つかった炭などの年代を測定したものではありませんが、さらに古いと言われる人骨もありますが、確実に人骨の年代と判断できる資料であるため、今回の発見は価値が高いといえます。

白保竿根田原洞穴出土の人骨（沖縄県立埋蔵文化財センター提供）



第2号人骨 約20,000年前



右第2中足骨

第4号人骨 約19,000年前

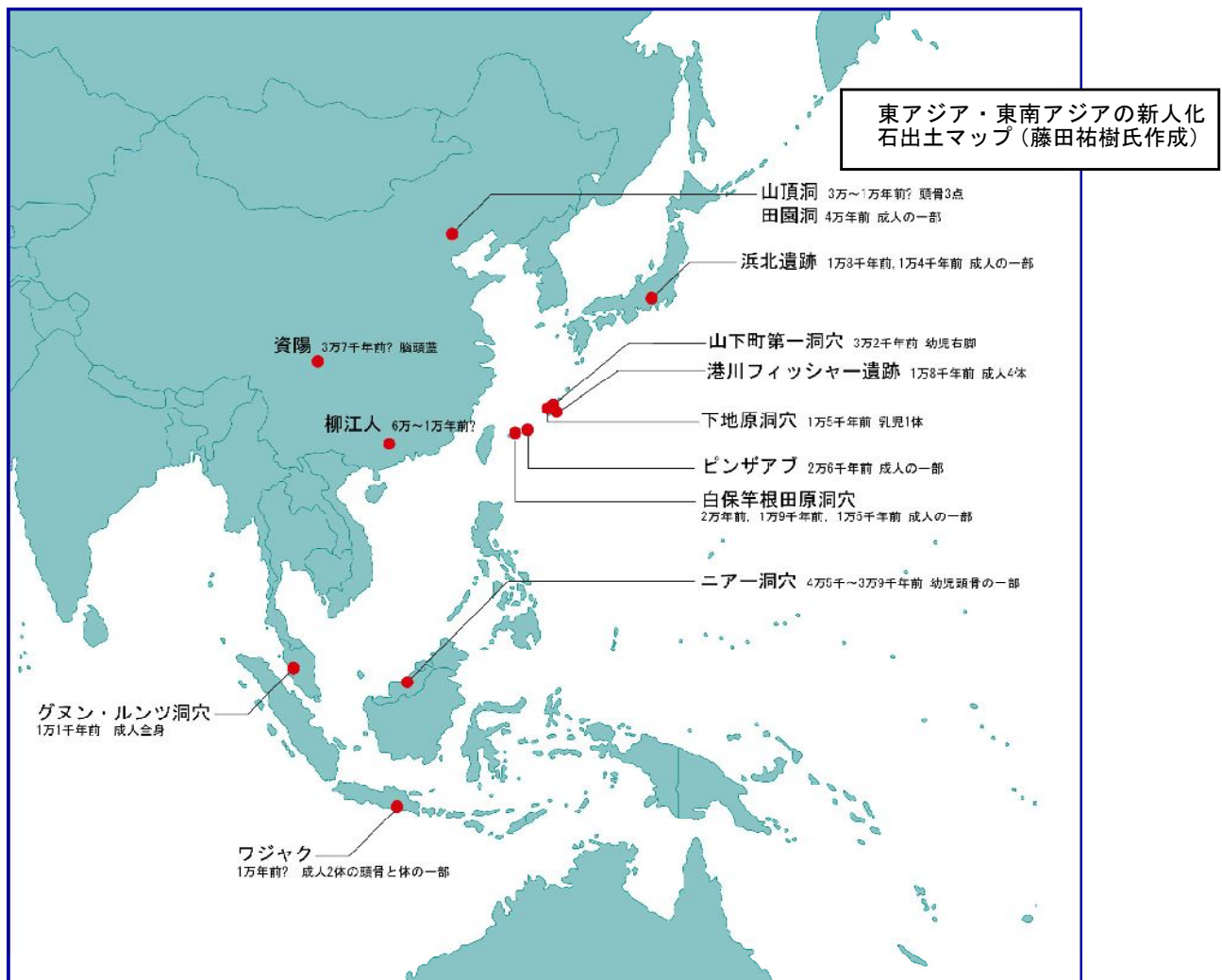


左腓骨

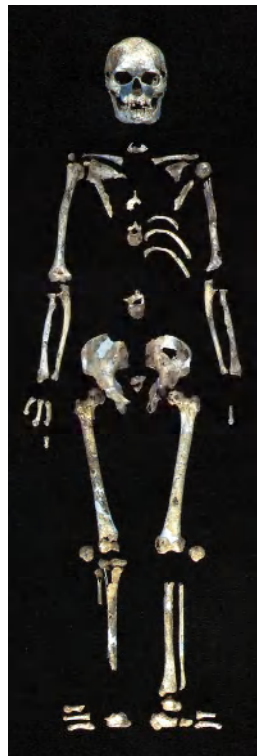
第8号人骨 約15,000年前

【資料】白保竿根田原洞穴出土更新世人類化石の放射性炭素と同位体分析の結果

人骨資料No.	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	^{14}C 年代 (BP)	測定機関ID
No. 2	-19.6	20,416±113	MTC-12820
No. 4	-20.1	18,752±100	MTC-13228
No. 8	-19.3	15,751±421	MTC-12818



港川人模型（沖縄県立博物館・美術館所蔵）；ヤンバルクイナの骨は港川フィッシャー遺跡から出土している。



港川1号人骨（東京大学総合研究博物館所蔵）

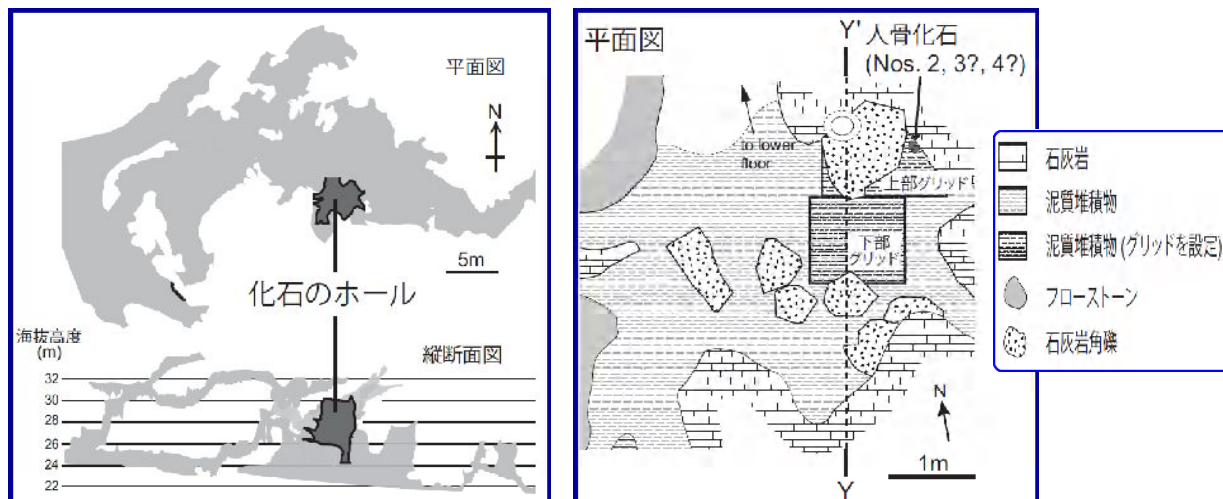
沖縄県出土の人類化石年代一覧

- 下地原洞穴（久米島）
15,000年前・乳児・カニの爪
- 白保竿根田原（石垣島）
15,000年前・成人一部・コラーゲン
- 港川フィッシャー（八重瀬町）
18,000年前・成人4体・炭
- 白保竿根田原（石垣島）
19,000年前・成人一部・コラーゲン
- 白保竿根田原（石垣島）
20,000年前・成人一部・コラーゲン
- ピンザアブ洞穴（宮古島）
26,000年前・成人一部・炭
- 山下町第一洞穴（那覇市）
32,000年前・幼児右脚・炭

白保竿根田原洞穴

白保竿根田原洞穴には、後期更新世（旧石器時代）の人骨やイノシシ等の動物骨を包含する層の堆積があることが分かりました。沖縄県立埋蔵文化財センターでは、沖縄県立博物館・美術館のほか、大学等の研究機関、石垣市教育委員会の協力を得て、本格的な発掘調査を実施することが決まっています。

今後の発掘調査で、沖縄県における後期更新世（旧石器時代）の様ざまな問題や様相の一端が解明される可能性は高く、期待はとても大きなものです。



白保竿根田原洞穴本洞（左）と化石ホール（右）の平面図（沖縄県立埋蔵文化財センター提供）

